

鼠径ヘルニアについて

睾丸へつながる血管や精子を運ぶ管は、内鼠径輪と呼ばれる左右の下腹部のおなかの壁を貫いて走行(女性の場合は子宮円靭帯:子宮と恥骨を結ぶ靭帯)しています。これは、年齢とともに組織が脆くなり、おなかの壁がゆるみ、この内鼠径輪やその近傍から腸を包んでいる腹膜が徐々に脱出し、その中を腸が出たり入ったりすることから、脱腸とも呼ばれます。

一度とびだしたヘルニアは、自然に治ることはなく、また圧がかかることから徐々に脱出の程度はひどくなり、陰嚢まで達することもあります。

違和感、つっぱりや痛みを伴う場合があります、通常は横になったり、膨らみを抑えることによって脱出した腸は元にもどります。しかし、まれにとび出したまま戻らなくなり(嵌頓状態)、腸の血流が圧迫され壊死に陥った場合、緊急手術が必要となる場合がありますので、注意が必要です。足の付け根(鼠径部)の膨らみに気付いたら、まず外科医に診てもらいましょう。

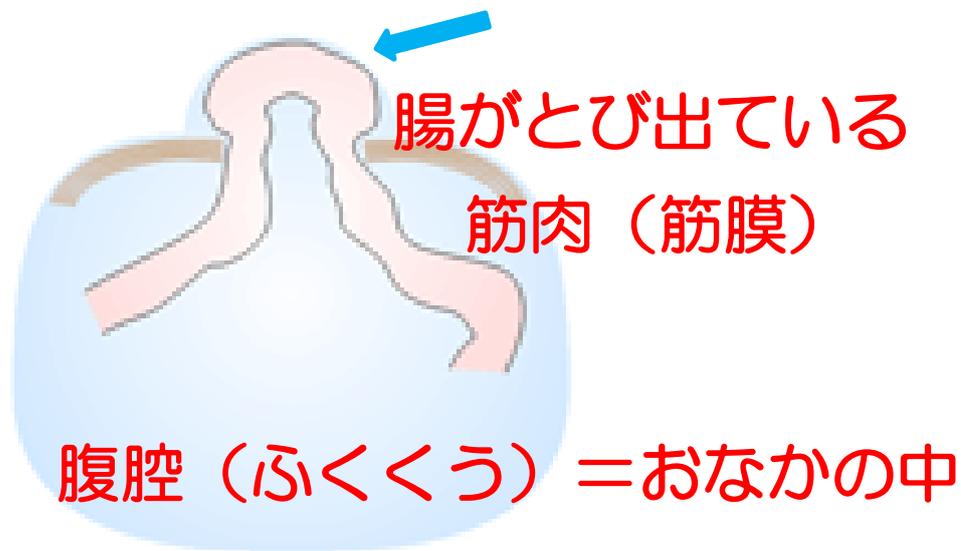
■ 治療法

大人のヘルニアは自然に治ることはなく、手術が唯一の治療法です。

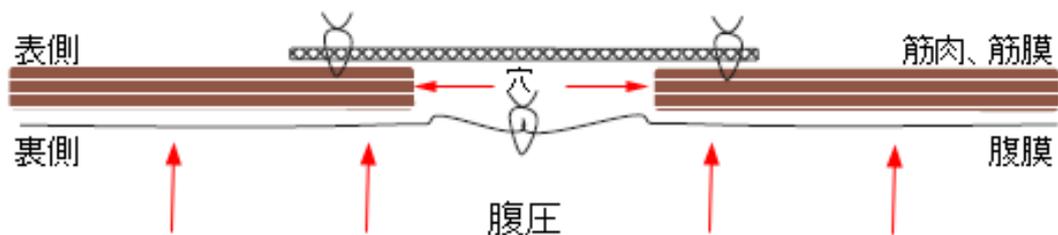
手術の方法には、鼠径部を切開して手術を行う方法と腹腔鏡を用いた手術の二通りがあります。手術の内容は、ヘルニアが脱出している鼠径部に5-6cmの皮膚を切開し、脱出しているヘルニア嚢(腹膜)を剥離し、これを元の鞘であるおなかの中(腹腔内)に戻し、補強材であるメッシュを同部に挿入し、脱出部にふたをすると同時に前述の弱っている筋肉や筋膜の補強を行う手術を行います。腹腔鏡手術の場合は、同様の手術をお腹の内側から行います。傷が目立たず、傷の突っ張った感じがより少なく済むのがメリットです。術式の選択については、担当医にご相談ください。

手術の内容は同じですが、麻酔の方法に二通りあり、脱出が高度の症例、肥満が強い症例、両側の症例や痛みが弱い方には腰椎麻酔(半身麻酔)や全身麻酔を行いますが、局所麻酔でも可能な場合もあります。ただし、腹腔鏡下手術の場合は、全身麻酔が必要となります。通常は手術当日に入院していただき、翌日には退院が可能です。患者様の状態を考慮して柔軟に対応させていただきます。

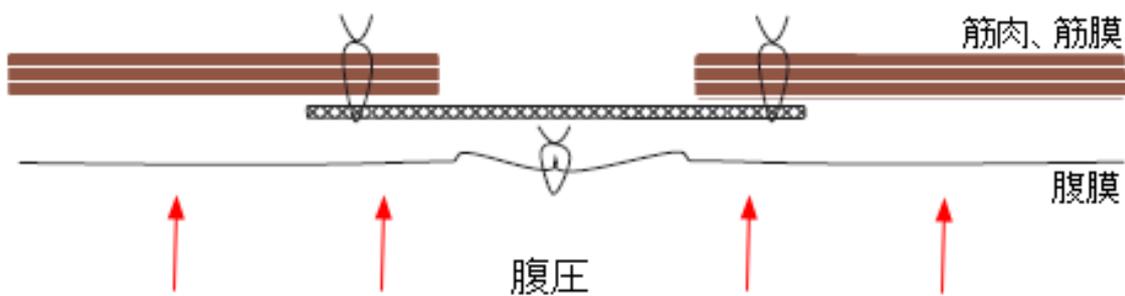
ヘルニアの概念図



・前方アプローチ（従来のヘルニア手術） 鼠径部に5～6cmの切開をおいて前方からメッシュ（人工のシート）をあてる方法です。



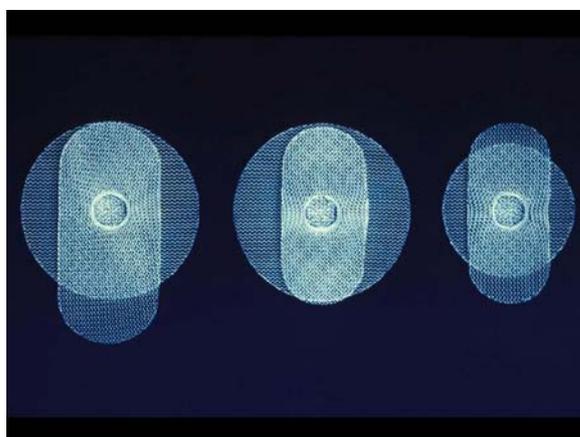
・腹腔鏡下修復術（TAPP法） お腹に3ヶ所 5mm～15mmの切開をおいてお腹の中からメッシュを当てる方法です。



実際の手術風景



それぞれにメリットがありますので治療方法はご相談ください！



鼠径ヘルニアに用いるメッシュの例。これらの他にも何種類も開発されています。症例にあわせて選択しています。

